

不起訴の事故 賠償命令

4720万円 75歳死亡 衝突認定

岐阜地裁

妻・紀子さんの写真を手に記者会見する岡田外志さん(22日、岐阜市で)

岐阜市の市道で2014年、車にはねられ死亡した岡田紀子さん(当時75歳)の遺族が、道路交通法違反(ひき逃げ)容疑などで逮捕され、その後不起訴となった女性(79)に、約5560万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が22日、岐阜地裁であった。木野村瑛美子裁判官は「加害車両の運転者は被告であると認めるのが相当」として原告側の訴えを認め、女性に約4720万円の支払いを命じた。



判決によると、岡田さんは14年6月12日夜、岐阜市の市道を歩いて横断中、車にはねられ、翌13日未明、出血性ショックで死亡した。

判決で木野村裁判官は、現場の状況や女性が運転していた車の損傷状況、車の前輪の泥よけから岡田さんの血液が検出されたことなどから、女性の車が時速約30キロで横断歩道付近にいた岡田さんに衝突したと認定。その上で、「救護の措置を十分に尽くしたとは言えず、捜査機関に対して加害車両を運転していた事実を否認するなど、事故後の態様も悪質」と指摘した。

女性は同18日、自動車運転死傷行為処罰法違反(過失運転致死)と道交法違反(ひき逃げ)の容疑で岐阜県警に逮捕されたが、女性は「傘が当たっただけ」と容疑を否認。岐阜地検は16年2月に女性を不起訴(嫌疑不十分)とし、遺族から審査の申し立てを受けた岐阜検察審査会も18年1月に「不起訴相当」と議決して

「しることを望む」と述べ、女性の起訴を求めていく考えを示した。

交通事故を専門に扱う「しまかせ法律事務所」(名古屋)の井上昌哉弁護士は「交通事故の民事裁判で、不起訴となった被告に損害賠償が命じられるケースは珍しくないが、被害者が高齢にもかかわらず、高額な賠償請求がほぼ認められた判決は異例だ」と指摘した。

厚労省によると、修正に1週間程度かかる見込みで、利用者は最新版のアプリに更新する必要があるという。22日午後5時現在、

判決後、岡田さんの夫で原告の外志さん(82)は岐阜市内で記者会見し、「勝訴を本當にうれしく思う。今後、正しく刑事裁判が行わ

ることを望む」と述べ、女性の起訴を求めていく考えを示した。

◆新型コロナウイルスの感染者

都道府県別の発表数	1万7532人(+4)			
北海道	1199(+2)	95	滋賀	
青森	27	1	京都	
岩手	0		大阪	
宮城	90(+1)	1	兵庫	
秋田		16	奈良	
山形		69	和歌山	
福島		82	鳥取	
茨城	170	10	島根	
栃木		66	岡山	
群馬	151	19	広島	
埼玉	1042(+4)	65	山口	
千葉	930(+2)	45	徳島	
東京	5812(+29)	321	香川	
神奈川	1435	94	愛媛	
新潟		83	高知	
富山	227	27	福岡	
石川	300(+1)	22	佐賀	
福井		122	8	長崎
山梨	72	1	熊本	
長野		77	大分	
岐阜	156	7	宮崎	
静岡	80	1	鹿児島	
愛知	526	34	沖縄	
三重	46	1		
その他(空港検疫など)			44	
国内合計			1万7974(+4)	

国内感染43人

国内では22日、新型コロナウイルスの感染者が新たに43人確認され、累計で1

万7974人になった。死者は、東京都の70歳代男性1人だった。

東京都では29人の感染が確認された。接待を伴う飲食店の従業員や客ら「夜の

日以来、5日ぶ

接触通知アプリ 誤表示の不具合

新型コロナウイルスの感染者と接触したことを知らせるスマートフォン用アプリで、運営する厚生労働省は不具合が見つかったことを明らかにした。22日現在、

一部の操作によって誤ったメッセージが表示される場合があり、厚生労働省は「できるだけ早く修正を完了したい」としている。

厚生労働省によると、本来は処理番号ではない数字を入力すると「失敗」と表示されるはずが、「完了しました」と表示される不具合が、アプリの提供を開始した19日に見つかった。誤って「完

了」と表示されても実害は生じないが、混乱を招く恐れがあるため、厚生労働省はアプリが修正されるまで処理番号の発行を見合わせることにした。

医療を守る

東京コロナ基金 寄付1億円超す

助成対象拡大へ

読売新聞社と読売光と愛の事業団が設立した「東京コロナ医療支援基金」への寄付金額が、1億円を超えた。寄付は6月末でいった

東京コロナ医療支援基金

郵便振替は00100・8・1274 85、加入者名・読売光と愛の事業団。通信欄に「東京コロナ」と記入。原則1口1万円

東京コロナ医療は、読売巨人軍督らが「東京のう」と都に寄付